序

橿原市の東南部を南北に貫く国道169号線は旧下ツ道にあたり，また山田・丈六とを結ぶ山田道も古道を踏襲したものであって，この両道の交叉する地域は，古代以来，軽の地名で親しまれている。この付近は，古代における交通の要衝として，また古代飛鳥の西辺地域の一画として，きわめて重要な位置を占めていたこともあって，その名が「記紀」「万葉集」などにしばしば見られるところである。

現在，この地域は近畿日本鉄道橿原神宮前駅に近接しているため，橿原市内でも，宅地開発がもっとも進行している地域の一つに数えられており，人口増が著しい。したがってこの地域を校区に含む橿原市立畝傍南小学校は，10年来，児童数が大幅に増加し，教室の不足が深刻な問題となった。橿原市ではこうした実情にかんがみて，昭和51年4月この地域に畝傍東小学校を新設し，一時畝傍南小学校内に併置するとともに，新校舎建設敷地として五条野町，大軽町，石川町の三町にまたがった軽池北側の丘陵地を選定した。この場所はこれまで遺跡の存在の知られていないところであるが，付近には著名な軽寺跡，石川精舎跡があり，関連した遺跡の存在も考えられるので，昭和51年5月軽池北遺跡調査会を組織し事前に発掘調査を実施した。本書は，この調査結果について，まとめたものである。今回，本書の刊行にあたり，この調査に御協力を頂き，また報告書の編集作成・資料提供など御厚意を得た奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部の方々に謝意を表するものである。

昭和52年3月

橿原市長　三　浦　太　郎